

第2章 情報企画室図書担当

【構成員】

担当教授(兼): 古原 忠

図書係長: 真籠 元子(-2008.12), 勝本 加奈子(2009.1-) / 図書系職員: 小飯塚 猛 / 事務補佐員[3名]

【図書電子化委員会】

委員長 准教授: 大山 研司

委員 准教授: 木口 賢紀、藤原 航三

助教: 家田 淳一、下谷 秀和、桜庭 裕弥、池田 一貴、西島 元

オブザーバー 教授: 古原 忠

総務課長: 鈴木 孝

1. はじめに

図書室では、1800年代から今日までの材料科学に関する幅広い領域の資料を収集・所蔵している。金研が歴史的に金属・材料研究の中心であり、また全国共同利用機関であること、さらに物質・材料学では世界の最先端に位置することから、所内・学内はもとより国内外からの研究者の来訪も多く、図書室は幅広いサービスを提供している。

2. 組織・運営

図書室は、図書係として金研事務部総務課に属し、係長を含む職員2名、事務補佐員3名で業務を行っている。図書室の運営は情報企画室のもとで行われ、その専門委員会として図書電子化委員会が設けられている。

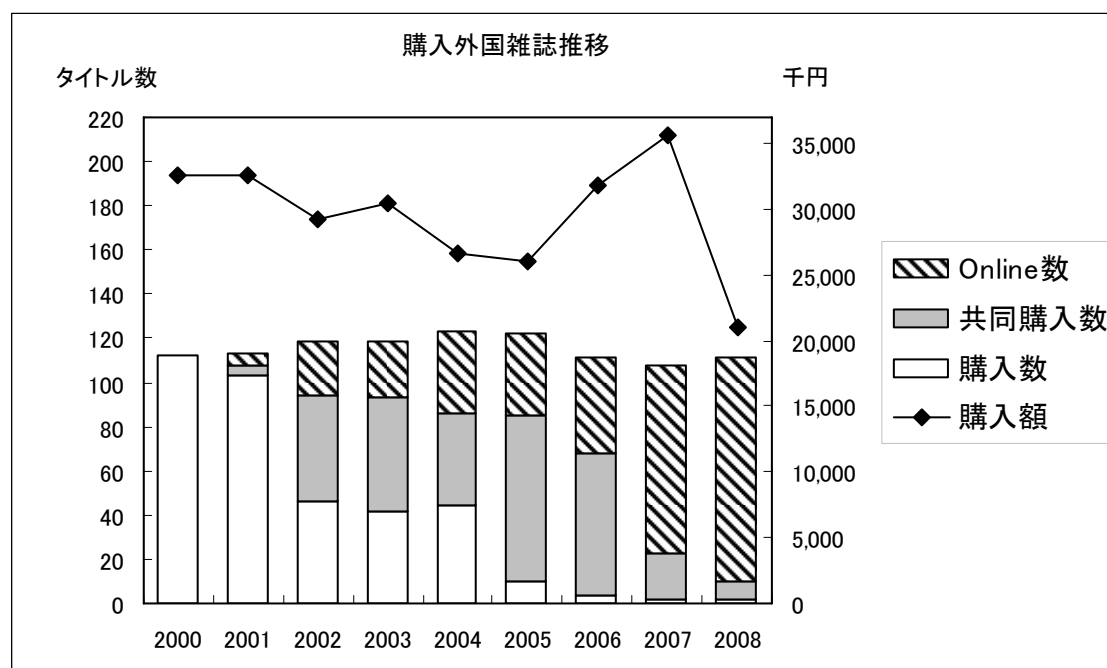
業務の特徴として、部局図書室としては唯一附属図書館を介さず図書受入・支払→目録・分類→登録の体制を維持し、研究者へ迅速に資料を提供している。また、学術情報のデジタル・コンテンツ化が急速に進展する中、図書室においても素早く適切な対応が要求されているが、これに対応するため若手研究者を中心に構成された図書電子化委員会と連携し、利用者の視点に立った電子化整備を押し進めている。研究者と図書室による情報整備に関わる委員会の存在は、学内唯一で特筆すべきことである。外国雑誌価格の高騰や冊子体から電子ジャーナルへの切り替え、二次情報データベースの多様化など様々な問題に係る取り組みが全学的に行われる中で、本所ならではの利用者ニーズを把握しつつ親しみやすく快適な図書室であるよう常に心掛けている。

3. 購読雑誌および電子ジャーナル

第4部 研究および教育活動に対する支援組織

東北大学では、2001年のAPS誌共同購入を皮切りに、外国雑誌を中心とした全学共同購入と電子ジャーナル整備が、附属図書館の「学術情報整備計画」の下で段階的に進められてきた。図書室ではこの整備計画に従い、電子ジャーナルのみの契約への切り替えなど、外国雑誌購入費抑制のための努力を積極的に続けてきたが、雑誌価格の高騰は止まらず、2007年には共同購入以前の購入費を超える状態となった。しかし、当初から要求が続けられていた電子ジャーナルの全学共通経費化について、2008年から全学的基盤経費として2億円が配当されることになり、ようやく部局の負担が緩和された。今後も共通経費化の継続・拡大が期待される。しかしながら、外国雑誌は毎年約5%の値上がりが続いており、さらなる対策が必要である。電子ジャーナルのみの契約への移行がほぼ終了した現在、新しいタイトルの追加はもとより、現在利用できるタイトルの維持も難しくなっている。この問題は世界共通のものであり、出版者との交渉が各地で続けられている。

2008年は、図書室では13タイトルの冊子体を中止した。これにより、共同購入以前に購入していた全タイトルの9割以上が電子ジャーナルのみの契約となったことになる。冊子体の中止は、製本費の抑制と配架スペースの節約にも効果が現れている。なお、購入額の下落は全学的基盤経費の措置が主な要因であるが、電子ジャーナル料金の3か月分（1～3月分）を翌年度予算で支払うこととする変更にも起因している。



*Online 数は共同購入のうちの電子ジャーナルのみ利用できる数

4. 蔵書管理

4.1 図書の充実

限られた予算の中で常に図書の充実を図っている。継続購入としては、国際会議録の新刊の追加や欠号補充、個人で購入しにくいシリーズものを主たる対象としており、その点数は約30点に上る。ま

た、他大学に対し複写依頼の多いものや物質材料系の基本的な図書（日本金属学会刊行物など）、図書電子化委員からの推薦、新刊カタログなどを元に充実を図っている。

4.2 蔵書点検

毎年2回、書庫の蔵書点検を定期的に行い、不明図書・発見図書の確認や配架整備を行っている。

4.3 不用図書の除却

蔵書充実の一方で、書架の狭隘化は図書室の大きな課題の一つである。そのため2008年度は、学内で重複し、かつ利用頻度が少ない636冊の除却を行った。特に『Chemical Abstracts』は、かつては理工系分野で必須の抄録誌であり、膨大な冊数を所蔵していたが、現在はデータベース『SciFinder Scholar』で簡単に検索することが可能であるため、近年は利用されなくなっていた。

4.4 金研出版物の保存

金研で発行する報告書や広報誌などは、可能な限り収集し図書室で保存している。また、ここ数年それらに対する問い合わせなども増えていることから、過去に発行されたものについても収集していきたいと考えているが、過去の欠号補充が困難なものもあり、スペースの問題も含めて今後検討が必要である。最近では、写真など学術文献以外の問い合わせも多くなっている。

5. 利用者サービスの充実

利用者との距離が近い部局図書室の利点を活かし、利用者にとってより身近で、行き届いたサービスを提供するよう、スタッフ全員で努力している。

5.1 利用者向け講習会

毎年4月、金研の新構成員のために図書電子化委員を講師として、主要なデータベースの講習と図書室のオリエンテーションを行っている。今年度は47名の参加があった。内容については毎年見直しを行い、今回は『CrossFire』（無機・有機化学物質データベース）と『GeNii』（NII 学術コンテンツ・ポータル）を対象に加えて周知に努めた。また、附属図書館が随時開催する新たなデータベース等の説明会の際は、金研の講堂での開催に積極的に協力し、学生や研究者がより効率的に利用できるようサポートしている。

開催日	内容	主催	参加者
2008.4.25	金研図書室オリエンテーション (13:30-15:00) 第1部 図書室オリエンテーション ・ 施設案内、利用案内、MyLibrary 第2部 各種データベースの使い方 ・ ICDD Cards ・ Alloy Phase Diagrams Online	金研図書電子化委員会・ 図書係	47名

第4部 研究および教育活動に対する支援組織

	<ul style="list-style-type: none"> • CrossFire • Web of Science • GeNii 		
--	--	--	--

5.2 情報検索コーナー

図書室では図書電子化委員会のサポートを受けながら、多くのデータベースの中から有用なものを厳選し、図書室の情報検索コーナーで利用者が必要な時にいつでも使えるように環境を整えている。また安全対策として、ウィルスチェックソフトとハードドライブシールドソフトを導入している。近年、データベースのオンライン化が進み研究室から利用できる環境が整ってきているが、図書室でしか使えない重要なツールもあり、今後も情報検索コーナーの充実を進めていきたい。

CD-ROM	オンライン
Binary Alloy Phase Diagrams	Alloy Phase Diagrams Online
ICDD Cards (2008)	GeNii
Landolt-Bornstein Comprehensive index	ICSD
Pauling File	Journal Citation Reports Web
Pearson's Crystal Data	KOD (研究社オンライン・ディクショナリー)
Phase Equilibria Diagrams (1913~2003)	Online Catalog (図書館蔵書検索)
その他	Online Journal
	Phase Equilibria Diagrams Online
	SciFinder Scholar (1840~)
	Web of Science (1900~)
	特許電子図書館(特許庁ホームページ)
	その他

5.3 「情報検索の手引き」の発行

前述のような研究活動に欠かすことのできないツールの有効利用に供するため、図書電子化委員と図書係では1997年に「情報検索の手引き」を作成・発行した。以降2年に1度「手引き」の内容を再検討して改訂を行っており、今年度は3月に第6版を発行した。「手引き」は各研究室やオリエンテーション参加者に配布するほか、図書室の情報検索コーナーにも備え付けている。研究者である図書電子化委員が実体験に基づいて執筆した利用法は、金研の構成員にとって真に有用であるので、今後もより使いやすい「手引き」へとブラッシュアップを行っていきたい。

5.4 ホームページの充実

図書室では、有用な情報をいち早くキャッチし、「お知らせ」での広報やリンクを作成するなど充実したホームページとなるよう心掛けている。

また、外国雑誌の電子ジャーナル化が進み、予算の面からも電子ジャーナルのみの雑誌が増えているが、Online Journalのリンク集(金研版)は2か月毎に係員全員でリンクチェックを行うなどきめ細かなメンテナンスを行い、利用に支障のないようにしている。その他、冊子体の新着状況を確認できるリンクや利用上のルール案内、情報検索(データベース)に関するQ&Aや使い方なども掲載し、利

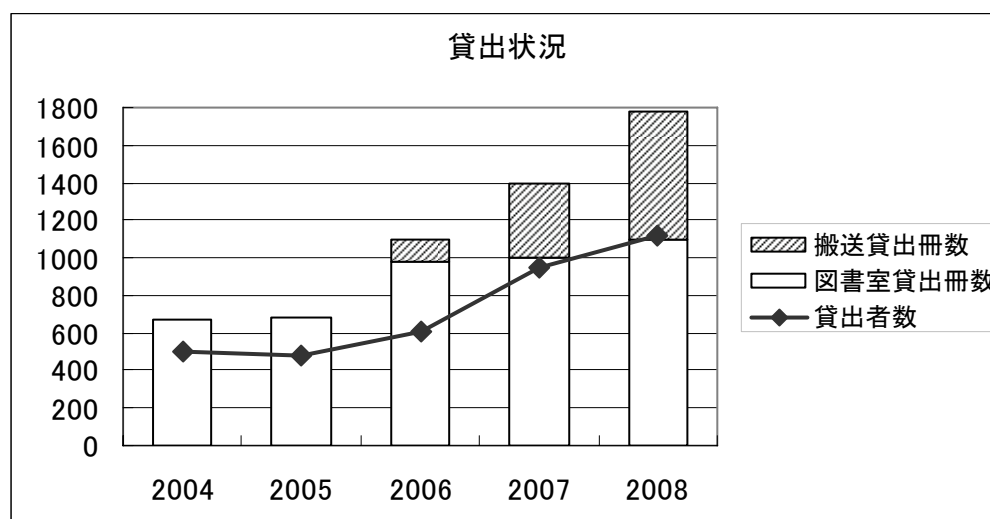
用者の疑問がホームページ上で解決できるよう充実を図っている。

さらに、他にあまり例のない国際会議録のページについては、金研に関連する43の会議について、過去の会議録を追跡調査し、最新の所蔵情報も継続して掲載するようメンテナンスを行っている。

5.5 資料の提供

電子ジャーナルやデータベース等デジタル・コンテンツの利用が増大する中で、図書の貸出状況（貸出冊数・貸出者数）は次の図で示すように、ここ3年間で急激に増加している。特に基礎的なものや、金研の研究者による著作の貸出が多いようである。今後も、図書充実に一層努めていきたい。

その他に増加の大きな原因として、2006年度に試行、2007年度から本稼働したキャンパス間資料搬送サービスが考えられる。このサービスは、利用者が指定する図書館（室）に取り寄せ貸出・返却を行うことができるというもので、他キャンパスはもとより、片平地区内にある他の研究所図書室についても対象となっており、利用者には大変好評である。



5.6 その他

2008年度は、グローバルCOEの予算により電子ブック83点を導入した。それらの利用統計を参考に、電子ブックの拡充について検討を進める予定である。

また2007年度にグローバルCOEの英語教育強化に基づき導入した英語のeラーニング教材「NetAcademy2」について、教育支援という観点から利用者登録を図書室が行っている。「NetAcademy2」は所内のパソコンであればどこからでも利用可能であるが、特に英語教育用のスペースとして2号館303号室に教育プログラム室を設けている。この部屋は、パソコン2台の他に英語に関する辞典・マニュアル、ミーティングができる椅子やテーブル、プロジェクターなどを備えており、少人数制の英語クラスなどが実施できるようになっている。

6. 文献複写（図書館間相互利用サービス）

第4部 研究および教育活動に対する支援組織

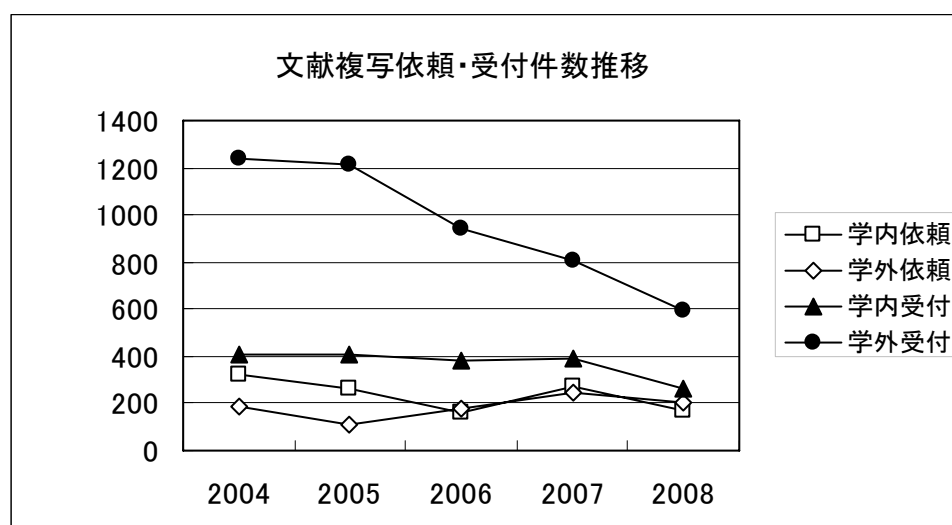
学内の各図書館および学外の大学図書館との相互の文献複写サービスは、研究上、学術雑誌論文が欠かせない金研においては重要な業務であり、必要な論文を依頼から1週間以内に利用者へ手渡せるよう迅速に処理している。ただ、学術雑誌の電子ジャーナル化の影響で全国的に相互利用の件数は減少傾向にあり、金研においてもその傾向にある。特に学外からの受付件数は大幅に減少しているが、これは学術情報整備計画により、外国雑誌の冊子体を段階的に中止したためと考えられる。さらに、これも電子ジャーナル充実の結果と推測されるが、遠隔地の本所大洗地区へのサービスとして継続してきた図書室所蔵資料の文献複写受付は、2003年には100件以上あったが、2008年は0件であった。しかし、このような状況の中でも、2008年度の学外からの受付件数は学外への依頼件数の約3倍弱であり、このことは、金研の学術雑誌コレクションの充実度を示すと共に、全国共同利用機関としての使命達成に貢献しているといえる。

また、文献を画像化してオンラインで送受信する画像伝送システムも利用されている。著作権法や出版社許諾の範囲内という制約があるが、特に学内で行っているe-DDSは、研究室に居ながらにして申し込み、受け取りができるため、今後も利用が増加すると予想される。

今後の課題としては、現物貸借や私費複写の対応などがあるが、引き続き検討中である。

※e-DDS:Electronic Document Delivery Services

(必要な文献を研究室等のパソコンから入手可能とする、学内図書館間限定のサービス)



	依頼			受付			
	学内	学外	計	学内	学外	大洗地区	計
2004年度	320(88)	190(1)	510(89)	410(33)	1,236(19)	10	1,656(52)
2005年度	260(54)	108(8)	368(62)	411(9)	1,217(11)	13	1,641(20)
2006年度	161(40)	177(2)	338(42)	384(4)	944(11)	8	1,328(15)
2007年度	273(71)	244(8)	568(79)	389(28)	803(19)	1	1,200(47)
2008年度	171(23)	202(3)	301(26)	262(12)	594(30)	0	856(42)

- * ()は画像伝送システムによる件数(内数)
- * 大洗地区は金研附属施設からの依頼に対する送付
- * 学外からの現物借用件数は本館経由のため含まず

7. その他

研究支援の役割を確実に果たし、また利用者のニーズに応えた多様なサービスを提供するため、図書室では研修会、勉強会に積極的に参加している。また図書系職員として、附属図書館が中心になって進めている、各種委員会やワーキンググループのメンバーの一員として活動している。

7.1 研修、勉強会等

- ・ 事務情報化講習会
- ・ 目録システム地域講習会（図書コース）
- ・ SciFinder Scholar 講習会
- ・ Scopus 説明会
- ・ 図書館職員研修
- ・ 国立大学図書館協会ワークショップ

7.2 各種委員会、ワーキンググループ、会議等

- ・ 学術情報発信 WG
- ・ 図書館情報教育支援 WG
- ・ 附属図書館部課長打合せ
- ・ 全学図書系係長等会議
- ・ 附属図書館商議会（陪席）
- ・ 附属図書館運営会議（陪席）
- ・ 学術情報整備検討委員会（陪席）
- ・ 分野別資料選定 WG（陪席）